

(1) 冬、日本海側では(札幌を除いて)小さいが、太平洋側が大きい。特に、東京・名古屋・大阪など近くに工業地帯がある地域で大きい値がでることは注目に値しよう。また九州でも比較的大きい値がでている。

(2) 北海道では年の値でも比較的小さい値がでるが、札幌だけは大きい。

(3) 日本海側と太平洋側の海岸部や島を比較すると、年の値では日本海岸の方が危険度が大きい。

(4) 内陸部は大きい値で、例えば松本がいつも約2倍大きい値を示す。

## 6. あとがき

この研究は昭和年度文部省特定研究「大気汚染の比較気候学的研究(代表者福井英一郎)」の一部として行ったものである。

## 文 献

- 箕輪年雄 1963: 大気汚染の予報. 気象研究ノート 14 263—271.  
 大気汚染研究全国協議会第三小委員会 1965: 大気汚染気象ハンドブック. (コロナ社) 482 p.  
 吉野正敏 1966: 日本における風の気候学的特性の2, 3 について. 地理学評論 39 20—30.; 1967: 日本における夜間の接地逆転. (地理学評論に投稿の予定)

## 資 料

1. 気象庁 1964: 特別平均値(その2)月日別の値. 気象庁観測技術資料第26号.

# 理 事 会 便 り

## 第 14 期 第 4 回 全国理事会

日 時: 11月7日, 17:30~20:00

場 所: 気象庁予報部長室

出席者: 畠山, 北岡, 神山, 根本, 大田, 朝倉, 須田, 小倉, 岸保. (以上常任理事)  
 山元, 孫野, 山本, 磯野. (以上理事)  
 高橋監事, 中野評議員

- (1) 前回理事会の決議により吉野常任理事辞任の後任として、小倉会員に連絡、承諾された。講演企画および学会費、藤原賞、ならびに長期計画関係事務を担当することになった。
- (2) 文部省科学研究費等分科会委員候補として、理事にアンケートの結果、総回答数14名全員賛成で磯野謙治会員に決った。

### 議 頭

- (1) 総会提出議題について  
常任理事会で準備した総会提出議案について意見交換がなされ、原案どおり可決。
- (2) 会員よりアンケートをとることについて  
「天気」などの内容改善に資するため会員より

アンケートをとることが、かねて検討されていたがその様式について審議、原案どおり可決。秋季大会の機会および「天気」綴込みで集めることになった。

### (3) 学会賞委員の推選

学会賞担当の小倉理事より上記の委員として、新たに岸保、竹内両会員の推薦があり、従来の委員有住、樋口氏と併せて4名の委員を委嘱することに決った。

### (4) 講演企画委員の追加

上記委員として、相原正彦会員に委嘱して、委員を追加したい旨提案があり、可決。

### (5) 大会開催地について

上記について43年度春は気象研究所、秋は名古屋地方で行う方向ですすめることになった。

### その他

さきごろから、米国気象学会と共催で Special Meeting を行う話が出ているが、これについて種々討論された。